

日頃、それぞれの学校において児童・生徒及び教職員の心身の健康管理にご尽力いただき、ありがとうございます。本会の開会に当たり、私からは「熊本の地震から学ぶ災害への備え」についてお話しさせていただきます。

およそ1カ月前の4月14日と16日に発生した、熊本県を震源とする強い地震により、現時点で49人の方が命を落とし、関連死と見られる方が19人います。その後も余震が続く中で、当初18万人を超えていた避難者数は大きく減少しましたが、なお1万人以上の方が避難生活を強いられています。

大学時代の友人が熊本に住んでいて、自身が被災しながら、民生委員として地域の被災者の元を訪れ、相談に乗ったり、手伝いをしたりしています。彼女から、地震発生1週間の頃に、SNSでこんなメッセージをもらいました。

14日の地震からやがて1週間ですが、相変わらず避難所と自宅を行ったり来たりしています。命があることに感謝して、今日も1日頑張ります。

はっきりいって、私も含め熊本県民は熊本でこんな大地震は想定外だったと思います。人間というのは勝手なもので、やっぱり自分の身に降りかからないと、所詮、他人事だとよくわかりました。

自分には関係ないと思っていても、明日は我が身と肝に銘じてください。これを読んでいる皆さんも、最低限の非常食や水などは確保しておいた方が良いでしょう。今回の地震、どんどん広がっているので、どう飛び火するかわかりません。いつ、どこで、何が起きても不思議ではない状況と思われまます。

彼女からは、時々メッセージが投稿されていますが、先週の投稿が、私たちにとって、とても重要なメッセージだと思えたので、印刷にして本日お配りしました。

本校では、先週末のPTA役員会で参加者にお配りし、また職員朝会で全職員に配りましたので、見出しに「校長より」と入ってしまっていますが、ご容赦ください。

後ほどご一読いただければ結構ですが、もしご覧いただいて、この内容を広く知らせておく必要をお感じになられたら、各学校の保健室だよりなどの形ででも、配布いただければ幸いです。本人はこの文章が拡散することを了承しておりますし、一人の一般人の提言に過ぎませんが、大きな示唆に富んだものだと感じています。

一昨日の夜に埼玉県南部でも震度4の地震がありました。その瞬間に私が感じたことは「まだ備えてない」という後悔の念でした。それにも関わらず、今日の時点でも未だ備えていません。お恥ずかしい限りです。「いつまでに」という期限のない準備ですが、早ければ早いほど良いのはもちろんです。さらに、それは自分自身にとってのものだけでなく、一人でも多くの人に備えてもらうべきだと思います。お配りした文章が、備えるべき全てでないことは言うまでもありませんが、備えを始めたり、見直したりするキッカケにはなるのではないかと思います。

彼女も書いていますが、こうした甚大な被害をもたらす自然災害の発生そのものを人間の力で抑えることはできませんが、人的な被害を最小限に抑えることはできるはず。そのために、私たちは何をすればいいのか、日ごろどんな心構えをしておけばいいのか。個人としてだけでなく、養護教諭である皆さんのお力でもできることを、ためらわずに行っていたきたいと願っています。